

■米国：男性職場で働く女性労働力が増

2014年10月21日現地報道によれば、ノースイースト・ユーティリティズ社（マサチューセッツ州）の事業会社である NSTAR 社では、本来女性のすべき業務でないと考えられている分野で働く 26 人の女性がいる。配電工、運転技術者、電力系統技術者、フィールドエンジニアやガス供給作業者を含む合計 1,200 の持ち場のうち、女性が約 2% を占めている。NSTAR 社の広報担当によると、ケーブル・コードとマーサズ・ヴィニヤードに電気を供給する同社は、女性労働力比率を高め、さらにはアメリカ電気事業労働者組合と地元コミュニティ・カレッジとの共同トレーニングプログラムへの女性労働力参加比率を高めるために努力しているという。ケーブル・コードで天然ガスを供給し、ナンタケット島へ電気の供給を行うナショナル・グリッド（NG）社には、女性のすべき業務ではないと考えられる仕事で働く 180 人の女性がおり、合計 2,111 の持ち場のうち 8.5% を占め、NSTAR 社よりも高い比率となっている。NG 社は、業界で女性に働きやすい職場を作ることを目指しており、同社ガス事業部上級副社長は、米国内の工学部の女子学生の比率 13% と比べると、同社のエンジニアリング部門の従業員の 3 分の 1 は女性であり、最近のこの上昇機運を社内の別の職場にも適用したいと考えている。